

## 小石川話

### 関東大震災100年と“まんたろう”

「私はこれに驚くよりもこれを心ゆく迄味わったといった方がよい」——これが関東大震災を振り返っての一文と聞くと、いささか不謹慎ではと思われるかもしれません、筆の主が“まんたろう”こと朝ドラ「らんまん」のモデル・牧野富太郎博士と聞けば、むしろ、その知的好奇心に感心させられるから不思議なものです。

大正12年(1923年)9月1日に発生した関東大地震では、小石川植物園にも3万人以上が一時的に避難したといいます。その際、江戸時代から残る旧小石川養生所の井戸が、飲料水として大いに役立ったそうです。そして当時、東京帝国大学理学部の講師として、園内にあった植物学教室に在籍していたのが、牧野富太郎博士その人でした。



以来100年、「もう一度生きているうちにあいう地震に遇えないものか」との博士の述懐は少々行きすぎかもしれません、現存する井戸や大震災記念碑を訪れ、「もう一度」に備える意識を新たにしてみてはいかがでしょうか。

第4分団 部長 西原伸一郎

## 素顔の消防団員

File:58



にいくら ひでき  
新倉 英紀 52歳  
H29.2.1入団  
機内食会社勤務  
白山4在住(原町西町会)

今回は国際線客室乗務員も経験した機内食会社に勤める、第6分団の新倉班長の登場です。

海水浴場まで120mという生まれ育った家のすぐそばには横須賀市消防団第26分団の分団本部があり、小さい頃から消防団の活躍を間近に見ていて、子供心にいつもすごいなと感じていました。

小石川消防団への入団のきっかけは、息子が高校の野球部に所属していた時、チームメイトの父親が第5分団にいらしたので、いろいろと話を聞くうちに興味を持ち入団させていただきました。

仕事以外では文京区軟式野球連盟の審判部長を務めているので、週末は都内のグラウンドで野球の審

判をしたり、折り紙ヒコーキ協会の准指導員として小学校などに出向いて子供たちにいろいろな折り紙ヒコーキを教えたりしています。

まもなく横須賀市よりも文京区での生活の方が長くなりますので、引き続き地域のため消防団活動を頑張ってまいります。



## ちよらかひ じよらかひ

南戸崎町会  
みなみとさきちょうかい  
(第3分団受持区域)

昭和25年に大和会(後の戸崎町会)から千川通りを隔てて分離する形で誕生した、小石川3丁目にある南戸崎町会は、町の中央にあった小石川無量院の門前町として栄えてきた町会です。

戦後は製本・印刷業の町として、住宅や工場、商店

が共存する下町風情溢れる町でしたが、バブル期の地価高騰により、工場の移転や大型マンションの建設などが進み、町会員も時代と共に変わってきました。

歴代の町会長は、人の和を広めて親睦を深め、明るい街づくりに努めるとともに、防災と青少年の育成にも力を注ぎました。現町会長の奥山さんは、小石川消防団の副団長を務められた後、小石川消防少年団の団長に就任されており、また、近年の防災コンクールでは4回の優勝と1回の準優勝という好成績を収めるなど、防火防災に対して意識の高い町会です。

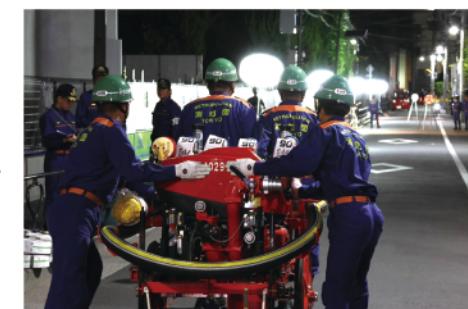


## 【続報】第51回東京都消防操法大会に向けて

現在、小石川消防団では、10月14日(土)に開催される第51回東京都消防操法大会に向けた訓練が佳境を迎えています。

6月から訓練場所を音羽パークロード600の多目的ゾーンから、区立柳町小学校横の道路へと移動させていただき、指揮者：高柳副分団長、1番員：澤団員、2番員：岡村団員、3番員：斎藤班長、4番員：二ノ宮副分団長の選手たちと、指導団員や支援団員が一丸となって、小石川消防団悲願の優勝を目指して訓練に励んでいます。

地域住民の皆様には、照明や騒音、交通規制等で多大なご迷惑をお掛けしておりますが、引き続きご理解とご協力のほど、心よりお願い申し上げます。



## 消防団員募集



いっしょに守ろう!  
小石川のまち、ひと。

小石川消防団 03-3812-0119  
(小石川消防署内 消防団事務局)  
首都東京を守る消防団 <https://tokyo23city-syobodan.jp>

